

鎌倉柳都講の沿革

りゅうと

鎌倉柳都講（現在講員三十六戸）は文政年間（一八一八―一八二〇）に発足した三峯講と、明治十年代に町内の災害を鎮めるため結成された御嶽講が合併した講中である。所在地の鎌倉市大町（旧大町村）は幕末の頃は戸数百数十戸の集落で、高札のある四つ角を中心に商家やさまざまな職種の職人が軒を並べていた。現在町内には寺院が十二ヶ寺もあり、七百五十年前に立宗した日蓮が最初に布教活動をした地として知られている。

でまかなうことが出来た。しかし長年かけ蓄えた二千元の講金も、戦後のインフレのためヤマミが一斗しか買えない価値になってしまった。昭和四年、旧村社八雲神社（祇園天王社）境内に講内外

百三十名の寄付により新社殿を建立、さらに社号標記念碑の裏面に詳細な勧請の沿革を記した。そして明治二十八年以来四十年間講元を務め、講の発展に尽力された菅埜友蔵翁に記念品を贈った。

柳都講は明治の半ばより講員の相互扶助を目的とした頼母子講（無尽）を運営し講金を増やし、日露戦争の頃には代参及びお日待ちの費用はすべて元金の利息



平成14年の代参出発式
（中央は八雲神社小坂宮司、左は講元山田初雄）

毎年五月中旬の早朝、代参者四、五名は八雲神社に集合して、宮司の祝詞奏上、修祓、道中安全祈願の太鼓を受けて出発する。一日目は御嶽神社に参拝して須崎裕主幹宮司の蔵屋に一泊、翌日は電車を乗り継いで西武秩父で下車、三峯神社に詣でる。近年は地元からレンタカーで代参する年もある。後日、代参者の報告を聞きながらお日待ちを行い、お札を各戸に配布する。
（世話人 清田昌弘記）

御岳山の行事

十月	十一日	薪神祭
十一月	五日	秋季祭
十二月	二十三日	末社祭
十二月	十四日	みたけ山山岳マラソン
十二月	二十三日	天長祭
一月	三十一日	大祓
一月	一日	元旦祭
一月	三日	太占祭
二月	三日	大口真神社祭
二月	九日	節分祭
二月	十一日	稲荷社祭
三月	八日	春季祭
三月	十九日	御岳山文化講座
四月	下旬	奉納俳句奉告祭
四月	下旬	産安社祭
五月	二十九日	奉納剣道大会
五月	八日	日の出祭(例祭)
五月	中旬	仏法僧と探鳥のつどい
五月	十五日	男具那社祭
五月	十五日	大口真神社祭
六月	十二日～十三日	峰中修行
六月	二十日	神楽と雅楽の一般公開
六月	三十日	夏越大祓
九月	初旬	カンタンを聞く会
九月	十一日～十二日	峰中修行
九月	中旬	御岳山文化講座
九月	二十日	神楽と雅楽の一般公開
九月	二十九日	流鏑馬祭
九月	二十九日	大口真神社祭
毎月	八日	月次祭
毎月	毎日	日供祭

石段奉納

本年六月に天野光紘社中、西東京市豊栄講（講元白石新次氏）の皆様方により、稲荷社前五段の奉納をいただきました。今後とも、石段整備事業として皆様方のご協賛をお願い申し上げます。



峰中修行

霊山御嶽に籠もり、朝夕の滝行・神社での鎮魂・山駆などを行う峰中修行も今年で八回を数え、修行内容も充実し、参加者の満足度も上がって参りました。来年も「御岳山の行事」にご紹介のとおり六月、九月に行います。詳細は神社祭事部まで。



青梅市指定文化財登録

当社奥の院「男具那社とその境内」と慶応三年奉納の「開平三知流額」が八月二日、青梅市指定文化財に登録された。歴史的な文化財を守って来た先人達と青梅市教育委員会また郷土博物館の皆様のご尽力に心より感謝致します。



郷土芸能、お囃子、能、神楽等の奉納のお願い

平成十七年の式年大祭に合わせて郷土芸能、お囃子、能、神楽等の奉納をお願いしております。式年大祭期間中の三月二十五日から五月三十一日の間。詳細は社務所まで。

太々神楽奏上

（平成十四年六月一日から十五年五月三十一日まで）

川崎市	敬慎講
福生市	(柳)村尾組
カンタン	を聞く会
川島町	宮前講
さいたま市	道場講
川崎市	中野島講
町田市	下大戸合社講
川崎市	新城講
川崎市	小仙波講
横浜市	羽沢御嶽講
川崎市	馬絹講
川崎市	矩秀工務店睦会
瑞穂町	鈴木教会
千葉市	誉田御嶽講
秦野市	秦野太々講
大田区	雪ヶ谷御嶽講
飯能市	一丁目永代講
松戸市	松戸講
戸田市	新曾馬場講
大田区	六郷御嶽参拝講
横浜市	菅田南町講